

## SDGs 達成に向けた「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」教材



# 亀崎潮干祭りから考える 三河湾のあさり

## 第1章 亀崎潮干祭りとアサリの関係とは？

### 亀崎潮干祭りとは？

亀崎潮干祭は、毎年5月初旬の2日間にわたり開催されます。2006年に国の重要無形民俗文化財に指定され、2016年には、ユネスコ無形文化遺産に全国33件の「山・鉦・屋台行事」のひとつとして登録されました。祭りは、神前神社の祭礼であり、半田市亀崎地区の5つの組に組織された各組が所持する山車によって行われ、山車は祭り当日に海へ曳き入れるという特徴があります。

山車を曳き入れる神前神社前の砂浜は、伊勢湾台風(1959年)の被害と、その後の護岸整備とともに砂浜が消失し、海浜曳き下ろしは行われなくなりました。現在、山車の海浜曳き下ろしのための砂浜は、1993年に造成された人口の砂浜です。

祭の発祥は、応仁の乱の時代、この地に居ついた武者が荷車を笹、しめ縄で飾り始めたと言われていいます。

亀崎は、江戸時代中・後期にかけて、酒や木綿などの物資の製造と、これらを江戸に運送する尾州廻船で大きな富を得て、それが5輦の絢爛豪華な山車づくりにつながりました。



人口砂浜の山車(写真上)と、護岸された対岸(写真下)  
撮影：古澤礼太(2017年5月3日)

出典：亀崎海浜緑地\_亀崎の名所・史跡\_亀崎潮干祭 <https://shiohi-matsuri.jp/guide/j-historic->

### 串アサリ

亀崎の名物である串アサリは、アサリの水管に竹串を刺し干したものです。1日ないし2日間、アサリを天日干したものであり、アサリの獲れる時期に作られますが、潮干祭の時期と重なるため、祭りでの酒宴や御もてなし等に振舞われる御馳走となります。

かつては、各家庭で作られていた串アサリですが、干すのに適した大振りのアサリの漁獲量が減ったことにより、作る家庭も減少し、現在では串アサリを作られる人はわずかとなってしまいました。

亀崎の海底はヘドロ層のため、アサリの成長の初期段階では向きませんが、その後の稚貝の成長には適しているため、明治初期にアサリ養殖が行われるようになりました。

しかし、亀崎に限らず愛知県内の多くの海岸では、干拓や埋立、護岸工事等を行った結果、アサリが生育できる砂浜(干潟)は消失してしまいました。亀崎でのアサリの漁獲は、現在では全く無い状況です。



亀崎名物の串アサリ

出典：酒中日記 <https://aonami24.exblog.jp/18451558/>

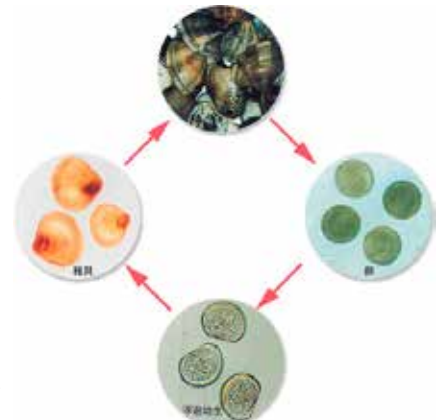
半田市誌地区誌編亀崎地区 平成九年六月

## 第2章 | アサリの一生と亀崎の自然

### アサリについて

アサリとは、いったいどのような生き物なのでしょうか。アサリの生息地は、一般的に、干潟や浅瀬などの潮の満ち引きにより、干出するような沿岸地域で、日本、朝鮮半島や中国など東アジアに分布しています。欧米などにも分布していますが、1900年に日本からアメリカに輸出されたカキの種苗に混じていたアサリが、繁殖したことがきっかけとなり、養殖や漁業が行われるようになりました。

アサリの一生は、水中で受精した卵から、2~3週間の浮遊生活をする、浮遊幼生からはじまります。潮の流れにより、干潟へ戻ることのできた浮遊幼生のみが、砂地へ着底し、底生生活をする0.2~0.3mmの着底稚貝となります。



アサリの一生

出典：愛知県農業水産局農政部食育消費流通課  
<https://www.pref.aichi.jp/nousei/iitomo/>

稚貝は、水の中を流れながら、適した砂地を探し、その後に土中へ潜ります。やがて成長した成貝は、春と秋の年2回(または年1回)に産卵をします。アサリなどの二枚貝の多くは、水中に漂う植物プランクトンや生物由来の粒子等の有機物を食べてくれます。また、アサリはクロダイのような魚類やカニの食料にもなっていて、食物連鎖の一部として海の生態系を守っています。

出典：Nippon Suisan Gakkaishi 81(6),1020-1023(2015) [https://www.jstage.jst.go.jp/article/suisan/81/6/81\\_WA2212/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/suisan/81/6/81_WA2212/_pdf/-char/ja) 出典：伊藤博."アサリとはどんな生き物か:アサリの生態,および漁業生産の推移."日本ベントス学会誌57(2002):134-138. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/benthos1999/57/0/57\\_0\\_134/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/benthos1999/57/0/57_0_134/_pdf/-char/ja)

### 半田市亀崎について

かつて亀崎は、愛知県の代表的な漁業である「あいち打瀬」という引き網漁の盛んな地でした。しかし、亀崎含め天然の良港である衣浦に面した一帯は、江戸時代から次第に海運業が発達し、明治には産業で栄えるようになりました。

時は経ち、1957年に衣浦港が重要港湾に指定され、衣浦港港湾計画に基づき、臨海工業用地造成事業が行われました。

それに伴い、1961年から1964年までに亀崎を合わせた13の漁協が県との漁業補償協定を締結し、美浜と大浜以外の漁協は後日に解散をしました。

そのような中、愛知用水は需要の増した工業と家庭生活の水を補うために、1961年に通水しました。



亀崎における海岸線の変化

出典：半田市/半田について <https://www.city.handa.lg.jp/kikaku/shise/gaiyo/shokai/handashi.html>

地理院地図(電子国土Web)より作成  
<https://maps.gsi.go.jp/>

出典：愛知の水産史—伊勢・三河湾における沿岸域の開発事業  
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/208466.pdf>

## 第3章 | 生物文化多様性

### アサリが語るもの

アサリの個体数が減っている事が問題として取り上げられています。長年の研究や調査の中で原因として、赤潮や青潮による海の酸素不足や海水温の変化、生息地である干潟の減少、ツメタガイの食害やウミグモの寄生、漁獲圧力の増加等々、数多くの考えられる理由があります。しかし、決定的な解決策がないのが現状です。



汐干潟弥生風景 三代歌川豊国作 1855年(安政2年)

環境の変化に伴い、亀崎の人たちが長年にわたって親しんできた串アサリを食べる事ができなくなってきたように、いつか、日本国内でアサリの味噌汁や酒蒸しが普段の食卓にのぼらなくなる日がくることも考えられませんか？

縄文時代の貝塚が示すように、アサリ含めた貝と人との関係は長いですが、海は、人とアサリだけで成り立ってはいません。今回は、アサリを取り上げましたが、アサリの生育ができない環境が広がればアサリが生物種として生き残ることが難しくなるように、他の生物多様性問題も同じではないでしょうか。

地域の文化は、その地域の自然環境から形作られ、自然環境もまたその文化からの影響を受けます。亀崎の串アサリ文化は、今の海の現状では維持できなくなっています。私たちは、日々の暮らしの中で当たり前のように得ている恵みを、私たち自身の文化や文明によって破壊することもあるのです。自然と文化の多様性を守るためには、自然と文化が争い合うのではなく、相互に恵みを引き出しあう関係が求められるのかもしれない。

### 考えてみよう！

- Q 1 . ワークショップでは、アサリを使った実験をしました。アサリは海の生態系を守るために、どのような働きをしていましたか？  
A. \_\_\_\_\_
- Q 2 . 亀崎の潮干祭りの時期になると、串アサリを食べる風習がありました。現在、串アサリ食はどのような状況になっていますか？また、そこからどのような問題が考えられますか？  
A. \_\_\_\_\_
- Q 3 . ワークショップでは、潮干祭とアサリ貝にまつわるさまざまな要素を学びました。SDGs(持続可能な開発目標)の17ゴールとのつながりをいくつか見つけることができましたか？



キーワード:

無形文化遺産、世代を超えた対話・交流、尾州廻船、山車、木の素地を生かした彫り物、女人禁制、人口砂浜、稲わら・若竹・萱・木綿、アサリ、食物連鎖、水質浄化、三河湾など。

## プロジェクト紹介

### プロジェクトの目的

このプロジェクトは、東海地方における**文化と生物の多様性**を学び、それらの保全を通して持続可能な地域づくりをおこなうことです。活動を通して、市民一人ひとりが、**文化・日常生活との関わりの中で、生物多様性の重要性を理解**することができるように、地域文化の中でも特に「祭り」に焦点を当てて、**祭りに関わる植物・食べ物（食材）**の生育環境保全についての学習プログラムを開発し、ワークショップを開催します。

### プロジェクトの内容

本プロジェクトは、以下の3つの方法で進めます。

**調査【目的】**祭りの中の自然（植物・食べ物）を抽出し、人と自然の共生の知恵を学ぶ

**【実施内容】**伊勢・三河湾流域圏の主要な15河川について、上流・中流・下流で開催される祭りで取り上げられるテーマや自然を調査し、文化と日常生活と生物多様性の関わりについてまとめる

**【期待される成果】**文化と日常生活と生物多様性の関わり、環境保全とSDGsの相互関連を明らかにしたデータベース

**実践【目的】**ワークショップを通して生物文化多様性保全の重要性を学び行動する

**【実施内容】**1年間5回、助成期間2年間で通算10回のワークショップ開催（生物多様性を学び、保全に関わる内容）

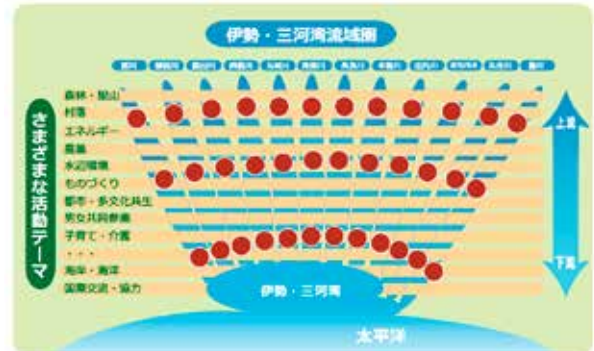
**【期待される成果】**環境保全の活動の実践体験を通し、祭りに関心のある子どもや家族を主とした地域住民が文化伝承に加え地域の自然環境の重要性を理解する

**発信【目的】**「祭り×生物多様性」モデルでグローバルな地域間のSDGs対話を促進する

**【実施内容】**ユネスコや国連大学等の国連のネットワークを使って、「祭り×生物多様性」モデルを世界に発信する

**【期待される成果】**世界の分化の多様性を生物多様性の視点で説明することで、国際的な生物文化多様性の視点を主流化する

上記活動の協力者を大募集しています。



● 伊勢・三河湾流域圏の主要河川の上・中・下流36カ所の祭りを調査

全国10件のプロジェクトのひとつとして採択！

### トヨタ環境活動助成プログラムとは？

トヨタ自動車株式会社は、「トヨタ環境活動助成プログラム」を実施し、環境保全のための次の世代を担う人材の育成と環境問題の解決を目指す民間非営利団体等が実施するプロジェクトを支援しています。

テーマは、大きく分けて二つ、「**気候変動対策**」と「**生物多様性保全**」活動です。中部ESD拠点は、SDGsの視点から、日本の祭りを通して「生物多様性保全」をめざす取組を開始しました。

国・地域	生物多様性	採択されたプロジェクト	実施団体
日本	アンソラント	瀬戸内海最奥の浜辺【部所ヶ浜】の原宿ゴミ拾い ※マイクロプラスチックを拾う	一般社団法人 まじまじワークショップ
		西島橋生田保護プロジェクト	特定非営利活動法人 小笠原野生物研究会
		沖縄の海と島を守るグリーンベルト推進活動等協 働プロジェクト	特定非営利活動法人 おきなわグリーンネットワーク
		絶滅危惧種選定のギフチョウ（1日類）とヒメカガ （1日類）を主とする希少チョウ類の保全活動	組合川の里山・ギフチョウ・ ネット
		ふるさと森を守れ！地域協働による「松毛川・千 年の森づくり」プロジェクト	特定非営利活動法人 クワッドワークス
		SDGs達成をめざした「日本の祭り」と生物文化多 様性」プロジェクト	中部ESD拠点協議会
		グリーンインフラとしての都市農業 x ICT x コミュニ ティによる都市レジリエンス向上	しまがらみインテグレーション研究会
		「すべては次世代の子供たちのために！」-里山で 遊ぶ 学ぶ つながる-	自然・人と自然の会
		二ホンミツバチと森をつくるビーフォレストプロジェクト	特定非営利活動法人 ビーフォレストクラブ
		遊び場がなくなる地域の自然と環境問題	公益財団法人 山梨県環境研究所

### 協力者募集！



中部ESD拠点では、「日本の祭り」と生物多様性保全プロジェクトの協力者を募集しています。生物が登場する祭り探しの調査や、ワークショップ開催のボランティアなど、どのようなことでもお手伝いいただける方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

office@chubu-esd.net

### 中部ESD拠点(協議会)事務局

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200

中部大学 リサーチセンター 3階

TEL: 0568-51-7618

『亀崎潮干祭りから考える三河湾のあさり』

編集：古澤礼太、中島凌太 発行：2022年6月